

科目名		建築法規 I			
担当教員	佐藤 静		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	① 図説やさしい建築法規 ・ 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
N0.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	①建築基準法の概要 ②法令用語の読み方	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する分類・構成・形式を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
2	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕 ②模様替え、特殊建築物・指定工作物	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する条件・規制を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
3	建築手続き ①確認申請を必要とする建築物、 ②中間検査・完了検査、建築主事と ③特定行政庁・指定確認検査機関 ④建築主、設計者、施工者、建築主事等の役割	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～④の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
4	敷地・面積・高さ等の算定 ①建築物の敷地、敷地面積・建築面積・延べ面積、 ②建築物の高さ・建築物の階数	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
5	採光に関する基準 ①室内環境と安全、居室の採光・有効採光面積	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の居室に採光の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
6	換気に関する基準 ①室内環境と安全、居室の換気、 ②アスベスト規制・シックハウスに関する基準	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の居室に換気の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
7	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ・床の高さ ②地階の居室の基準、共同住宅等の各戸の界壁に関する基準	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の条件・規制が理解でき計算ができ説明できる 準備学習：教科書①の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・出席率評価点の合計とする。 期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い箇所については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年携わる			

科目名		建築法規 I			
担当教員	佐藤 静		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	① 図説やさしい建築法規 ・ 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
N0.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	都市計画、道路に関する規定 (都市計画区域内の概要・道路の定義) ①都市計画制度の概要、 ②道路の種類、基準等 ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
2	用途地域に関する規定 (用途地域の種類・建築物の制限等の規定) ①用途地域の目的、建築物の制限が理解でき説明できる。 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する目的・制限を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
3	面積の制限 (敷地に対する面積の制限・緩和の規定) ①容積率の規制・緩和、建ぺい率の限度と計算 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する規制緩和、計算が説明できる 準備学習：教科書①の予習			
4	高さの制限 (道路、隣地境界に対する高さの制限・規定) ①道路、隣地境界に対する高さ・計算 ②用途地域による高さ制限・計算 ③練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②の法に関する制限、計算が説明できる 準備学習：教科書①の予習			
5	建築設備 ①建築設備の概要 ②練習問題	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の法に関する概要、種類、基準を理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
6	防火に関する基準 (防火、火災に関する構造基準) ①防火、火災に関する構造・設備の概要 ②延焼のおそれのある部分の計算 ③練習問題	防火、火災に関する構造・設備の概要が理解でき延焼のおそれのある部分が計算できる。 理解度のチェック、練習問題で確認。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・出席率評価点の合計とする。 期末試験70%、小テスト20%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い箇所については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴		住宅設計に10年携わる			

科目名		建築法規 II			
担当教員	渡谷 征延		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした、基本的な法規の知識と設計の考え方を講義を通して学ぶ。 1. 建築施工において、法律上の規制、構造基準、申請手続き等の必要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 3. 講義一小テスト一解答一解説を繰り返すことで重要性を理解・習得する。				
学習目標 (到達目標)	人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心とした基本知識を習得し建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	① 図説やさしい建築法規 ・ 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社。 ② 建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院				
N0.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	防火地域 ①防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定) ②22条地域、延焼のおそれのある部分について	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②防火地域内・準防火地域内における建築物の制限、22条地域、延焼のおそれのある部分の理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習			
2	耐火構造・防火区画等(耐火・準耐火建築物の防火区画) ①建築物の耐火性能、用途・規模等による防火区画・種類	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②建築物の耐火性能、用途・規模等による必要な防火区画・種類等が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習			
3	特殊建築物等の内装(制限を受ける特殊建築物・建築物の内装) ①制限を受ける特殊建築物の用途・構造等、内装材の種類	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②制限を受ける特殊建築物の用途・構造等、内装材の種類が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習			
4	構造強度(木造) ①木造建築物の構造強度に関する規定。 ②柱・筋かい(耐力壁)の説明。	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①～②木造建築物の柱の大きさ・筋かいの必要量が理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習			
5	構造強度 (鉄骨造・鉄筋コンクリート造) ①S造・RC造の使用材料・強度・構造等	方法：教科書、資料を使って説明、解説の産字と、練習問題で確認 達成目標：項目①の使用材料・強度・構造等が確認、理解・説明できる 準備学習：教科書①②の予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・出席率・平常点を評価点の合計とする。 期末試験80%、出席率・平常点20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ることで、他の科目と関連性をもって学ぶ必要がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的の小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い箇所については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴		建築設計、施工監理歴、13年			